

第3回 全日本 学生フォーミュラ大会参戦記

金沢大学フォーミュラ研究会
2005年度チームリーダー 中尾 仁

2004年に行われた第2回大会。アメリカから参戦したテキサス大学に大きな差を見せつけられ、総合成績8位という成績で大会を終えた。今でもこの時の悔しさは忘れられない。しかしこの時、海外上位校の車輛を間近で見ることができたのは本当に良い刺激となった。コンセプトに従った設計、細部まで及ぶ軽量化などの工夫。完成度が高く、自分たちに足りないものを発見することができた。

第2回大会の悔しさを晴らすため、目標を優勝とし車輛の設計に取り組んだ。その結果、部品点数の削減などにより昨年比20kgの軽量化に成功した。オイルパン製作によりエンジン搭載位置を下げ、前後ブルロッド方式を採用するなど、各部品を低く配置することにより重心を約20mm下げることができた。その他にフレーム剛性の検討など多くのことに取り組み、半年間の走行試験を行い、万全の状態ですべての準備が完了し、2005年9月6日、第3回大会の日を迎えた。



大会直前の合同走行会では、他大学と同等の走りを見ることができたため、いくらか優勝への自信はあった。しかし競技が始まると、常に上位大学の点数の差は均衡しており、各競技の点数が発表されるたびに、上位の順位はめまぐるしく変わっていた。どこが優勝するのかは最後までまったく分からないまま、最後の競技であるエンデュランスを迎えた。そして私たちの出走順となった。

1週目こそタイムは遅いものの順調にタイムを短縮していき、皆の興奮も最高潮に達した時まさかのスピン。先日までの点数を計算した結果、順調にミスなく完走すれば優勝が見えていたため、極度の緊張に達していたのだろう。しかし冷静さは失わず、その後は順調なペースを保ち、11週を走りドライバー交代へ。次のドライバーも安定したペースを保ち、見事完走を果たした。

迎えた表彰式。総合成績6位から2位までの発表が終わったが金沢大学の名前はまだ呼ばれていない。エンデュランスのスピンによる大幅な減点のため、優勝はないと考えていたメンバーの顔には不安と期待が入り混じっていた。「総合優勝金沢大学」。ついに金沢大学の名前が呼ばれた。1年間の努力、先輩方が積み上げてきたものが実った瞬間であった。金沢大学の3回目の挑戦は最高の結果で終了した。

大会までの1年を振り返ると、今でも様々な出来事を思い出す。自分がリーダーとなることが決まった日から何度も不安な思いをしたこと。みんなで毎晩夜遅くまで設計に励んだこと。その中で何度も何度も意見が衝突し双方納得のいくまで議論しあったこと。何度も失敗を繰り返し、試行錯誤しながらの製作に追われる日々。テスト走行会中に何度も起こるトラブル発生。8月の合同走行会では故障もなく準備万端だと思っていた矢先、大会2週間前から予想外の問題が何件も同時に発生し、一時は大会参戦すら諦めかけたこと。多くのことを経験した密度の濃い1年であった。この経験は自分の人生において貴重なものになるだろう。学生フォーミュラという活動は、私を大きく成長させてくれたと思う。この素晴らしい大会が、各大学が切磋琢磨しながら、海外大会にも負けぬぐらいレベルの高い大会に発展していくことを期待している。

